

僕のホームタウン&ソウルタウン。

プロバスケットボール・石谷 聰選手

福岡をホームタウンとするTKbjリーグ「ライジング福岡」で活躍する福智町出身石谷聰選手。

田川市で行われるフランチャイズマッチを前に、プロ選手としての近況と故郷・福智町について想いを語っていただきました。

父が僕にとっての初代監督
僕のバスケのソウルはそこにある

精悍な顔立ちと抜群の身体能力で人気のある石谷選手。バスケットを始めたのは、現在も方城中学校で監督を務める父親の影響でした。「小さい頃はスポーツ全般が好きで、いつも校庭で走り回ってましたね。父さんが僕にとってのバスケットのソウルと言つても過言ではあります(笑)」。10歳前後で始めたバスケット歴は20年余。多忙な日々を送る中で、たまに父の住むソウルタウンである福智に帰省してはリフレッシュしているそう。

「自然が豊かだし、煮詰まった時なんかに故郷に帰るとやっぱり落ち着きます」。

一方ホームタウンである「ライジング福岡」では、ポイントガードという司令塔的な役割を担う石谷選手。シーズン中は体調とメンタルの両方を保つためにルーティンをこなし、試合に臨む気持ちを高めていくといいます。

子どもたちに夢を与えてナンボのプロスポーツ選手

シーズンオフには、チームが掲げる地域貢献活動を通じて、さまざまな人の触れ合い

を大切にしています。「オフの間は、いたんボールから離れて旅行に行ったり、おいしいものをして気持ちを切り替えますが、福岡県内の小学生を対象にバスケットを教えに行ったり、人権学習の一環でスポーツの楽しさについて話をしたりしています」。明るく元気な子どもたちに会うと、自分もフレッシュな気持ちでバスケの素晴らしさを再確認できるのだとか。

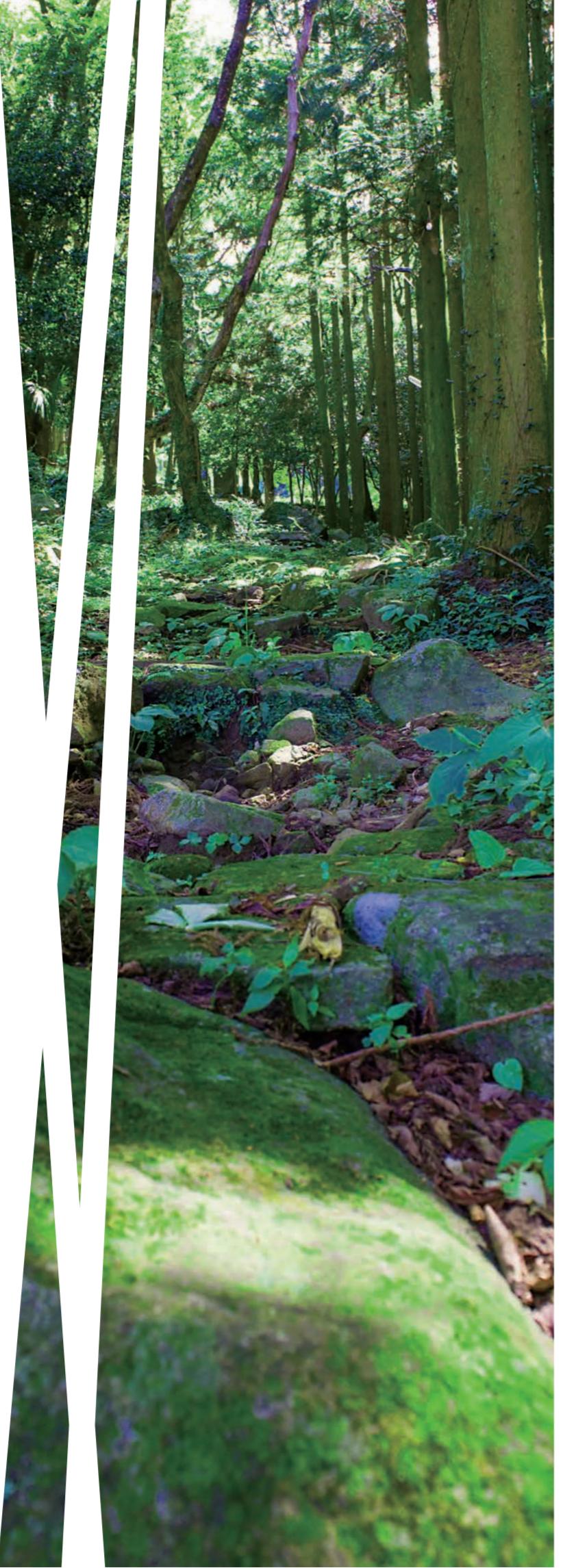
「中には、チームに入りたいて言ってくれたり、プロスポーツに興味を示す子もあります。目標を持つてがんばってくれれば嬉しいですが、夢がなかつたとしても焦らずじっくり見つけてほしい」と温かな眼差しで話します。それはきっと「好きなことを続ける」という簡単なようで難しい信念を守り抜いてきた石谷選手だから言える言葉です。

「福智町は活気がある町ですし、今年も金田の祭りに行きましたよ。僕の中でバスケを始めたこの地は、自分が立ち戻れる場所。今までチャレンジする姿を見せて、子どもたちに勇気や希望を与えられたらと思いますので、応援をお願いします」。



ライジング福岡

「Rizing」とは太陽が上昇する様(rising)と日本の雷電を司る(雷神)のともに勢いやエネルギーを表す複合語。「Rizing」という存在が、皆様を勇気づける「心の栄養」になって欲しいと願いを込めて命名されました。地域との交流を通して、子供たちに夢を与え、地域の皆様に愛され続けるチームとして、コミュニティーの創造、スポーツの発展に貢献することをポリシーとしています。



i あふれるまち・福智 [第二章] ism

六感で知る風景

景色と郷愁

いつか見たことのある景色、そしてどこか聞き覚えのある物語。
福智町の郷愁とノスタルジア溢れる原風景。

i あふれるまち・福智

六感で知る風景

景色と郷愁

[第二章] ism

六感で知る風景

景色と郷愁

i あふれるまち・福智

六感で知る風景

景色と郷愁

[第二章] ism

六感で知る風景